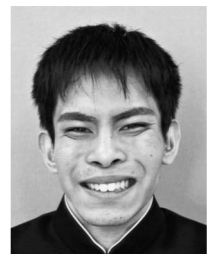


# 神のバトン賞 入賞者紹介

## 第15回山之口獏頭彰

### 表彰式 26日午後1時半 琉球新報社

県内の小中高校生を対象にした詩の賞「第15回神のバトン賞」(琉球新報社主催)の受賞者が決まった。同賞は県出身の詩人、山之口獏頭の生誕100年を記念して創設された。今回は昨年度の3倍の1258作品の応募があった。神のバトン賞に選ばれたのは、高校生の部が古波津勇人さん(沖繩ろう学校高等部3年)、中学生の部は石塚大久海さん(屋我地ひるぎ学園9年)、小学校高学年の部は金城孝哉さん(西原南小4年)、小学校低学年の部は多和田美月さん(天久小3年)だった。佳作には各部門で2作品ずつ計8作品が選ばれた。表彰式は26日午後1時半から那覇市天久の琉球新報社で開催する。



神のバトン賞  
古波津 勇人  
(沖繩ろう学校高等部3年)

手話を使うと楽しくなる  
手話の「ありがどう」はお相撲さんの手刀  
ほつべをグーでなぞるぞ「ネ」  
親指、人差し指で作った○をめぐらして「探す」  
ほら。手話はみんなの近くにある  
手話は手だけの言葉じゃなく  
手話は本当は「手と顔の言葉」  
楽しいときは楽しい顔  
辛いときは辛い顔  
怒るときは怒る顔  
手話を使うと楽しくなる  
色々な顔の表情が出来るから  
手話を使うと楽しくなる  
静かな場所でも使えるぞ  
手話を使うと楽しくなる  
ボケ防止になるかも...?  
手話はみんなが使える言葉の1つ  
手話(こ)でも使える言葉の1つ  
手話を使うと楽しくなる

## 高校生の部

佳作 池原 妃織  
(コザ高2年)

最善  
僕が道を歩いていた時  
道のまん中に石が落ちていた  
僕はその石を道の端に置いた  
その後道の真ん中に  
杖をついたおじいさんが通り  
道の端におじいさんが  
石につまずき転びそうになった  
おじいさんはとても驚いていた  
僕が動かした石でおじいさんが  
怪我をしそうになった  
悪いことをした後のように  
ドキドキした  
もし僕が石を動かさなければ  
おじいさんを驚かすことはなかった  
でも石が道の真ん中に  
そのまま置かれていたならば  
おじいさんは転んでいたら  
石を動かすこと石を動かさないこと  
どちらが良いのか  
僕には分からない  
石を動かしたことが  
一番良い結果じゃないとしても  
僕は僕自身が一番良いと思う  
良いと思える行動が出来た

佳作 上原 愛音  
(宮古高3年)

夢幻  
朱色の夕日に  
影が伸びゆく  
長さのちがう  
並んだ青春  
逆光をうけた  
彫刻のような横顔  
肩にかけられた  
清々しいスポーツバッグ  
冷えた指先を  
つむ一回り大きな手の平  
スピードが増して行く  
時間は止まっている  
白く透き通る頬に  
刺された深紅  
「じゃあ明日な  
君が告げる一日の終わり  
君が告げる一日の始まり  
一日の終わり?」  
あれ。  
一人で歩いてたんだって。

## 中学生の部

石塚 大久海  
(屋我地ひるぎ学園9年)



神のバトン賞  
石は黙っている  
地面で蹴られても  
石は黙っている  
雨や風が吹いて 転がされても  
石は黙っている  
みんながからかわれても  
石は黙っている  
からかわれてもからかわれても  
石は黙っている  
石は黙っている  
我慢強ければ  
優しい世の中になるのだろうか  
石は黙っている  
はま かわ やまと  
海は地球を青く輝かせ  
浜には砂糖のような砂がある  
川は戻ることなく進み続け  
魚は水をダンスを踊る  
山は水を作る守り神  
空は宇宙につながるスタートライン  
地球はここまでも丸い宝石  
重なる自然の大きな和  
すべて合わせて僕になる

佳作 玉城 妃子  
(石田中1年)

窓の景色  
教室の窓の回つには  
もう1つ教室がある  
鏡のように  
先生や生徒のまねをしながら  
元気よく  
はいーはいー!  
と手を挙げる  
勢いよく  
ガタガタと  
と席を立つ  
教室の外の廊下では見られない  
ここからの景色  
窓を開けたら  
教室の外が  
窓を閉めたら  
教室の中が  
見える 見える  
窓は景色を映している

佳作 航羽 航羽  
(大本小3年)

雨  
雨の音  
ポツポツビシャビシャ  
あそびたい  
おにぎり食べてあそびたい  
ザーザーザー  
にげろにげろ  
わめいて  
おにのかみなり  
コロコロコロと  
おいかけ  
みんなであそんで  
楽しそう  
ほくもつしよにあそびたい

佳作 金城 柚輝  
(玉城小3年)

ほく  
ペンをいたずらすると先生に  
おこられる  
ころころ  
うみにだいびをする  
とん・びやる  
しんかんがえる  
ウーン・ウーン  
なかなかもつつかない  
ゲームするぞ  
びこ・びこ  
かけっこするぞ  
へえ・へえ  
体いくするぞ  
がんばった・がんばった  
おかねがおちていた  
おつき・おつき  
せんえんきつがおちていた  
ちようちつき・ちようちつき

## 小学校高学年の部

神のバトン賞  
金城 孝哉  
(西原南小4年)



弟のランドセル  
黄金と黒にかがやくランドセル  
ほくのどほかがランドセル  
入学式をまわランドセル  
夢いっばいの弟の顔  
ほくの3年前といっしょだね  
何でも聞いてねおしえるよ  
新学期からは2人でいこう  
体のよい弟だから  
重くないかなランドセル  
学校まで毎日歩けるかな  
がんばれがんばれ1年生  
うれしそうな弟のかお  
なかく行く2人のランドセル  
どっちが重いかな2人のランドセル  
ほくはおたすけマンになろう

宮里 琉太  
(水納小4年)

ヤールー  
ほくは 虫を食べる神様  
ほくの大好物は  
もちろん!はえ!  
なので みんなから 愛されている  
たまに 狩りも失敗する  
じーっと 見ていたら  
バレちゃった  
そんな日もあるぞ  
仲間とも 虫の取り合いで  
けんかする  
本当は けんかなんてしたくない  
だって 友達だもん  
それでも  
みんなのために  
ほくのために  
虫を捕まえる  
こんなほくだけぞ ヤールーぜ

佳作 安原 登生  
(知念小6年)

下手で何が悪い  
人間は誰も完ぺきではないのだ  
お前もできないことがあるだろう  
俺にできないことがあるのは  
当たり前だろう  
俺にできないことがあるだろう  
お前にできないこともあるだろう  
下手で何が悪い  
馬鹿にして何が楽しい  
からかたて何が楽しい  
みんな支えあっているじゃないだろう

## 小学校低学年の部

神のバトン賞  
多和田 美月  
(天久小3年)



親子ってふしぎ  
おかさんとおはあちゃんが、  
話をしている。  
だんだん、声が大きくなった。  
「アノカをしているの。」と、  
弟がきいた。  
「話をしているだけだよ。」と  
おかさんがいった。  
「じゃあ、また、あしたね。」と  
アノカがバタン強くしまつて、  
おはあちゃんがでていった。  
エレベーターのところで、  
おいかけていった私に、  
おはあちゃんがいった。  
「おかあさんは、仕事も、家事も、  
あなたたちの世話も大変だから、  
私の大切な娘をつかれさせないでね。」と、  
家にもどると、  
おかあさんが言った。  
「おはあちゃんのいうことをちゃんときいて  
つかれさせないでね。」と、  
同じようなことを言った。  
ホッとしたら  
なんだかはなの奥が「じゅわ、じゅわ。」と  
と少しいたくなくて。  
もう少し、その「じゅわ、じゅわ」を  
感じていたかった。



高良 勉 (詩人)

今年から初めて「神のバトン賞」の選考委員になりました。今年の応募作品の総数は1258点で、昨年度の約3倍に達する予定です。これらの作品を読み込んでいきます。  
【小学校低学年】  
「親子ってふしぎ」(多和田美月・天久小3年)  
祖母と母から娘へ親子の愛情のふしぎに気づいたとき、はなの奥が「じゅわ、じゅわ」と少し痛くなってきました。心の動きが体の変化になったことをよく捉えました。  
【雨】(当路航羽・大本小3年) 雨の日のいろんな音が表現されています。一緒に遊びたい願いが、よく伝わってきます。  
【ほく】(金城柚輝・玉城小3年) 元気でおちめなほくの様子がよく描かれています。全体のリズムもよいです。  
【小学校高学年】  
「弟のランドセル」(金城孝哉・西原南小4年) ランドセルを比べることで、よって、「体のよい弟」への深い思いやりを表現しています。自分の成長と弟への期待の表現もよいです。  
「ヤールー」(宮里琉太・水納小4年) ヤールー(やもり)を主人公にした

## 選考評

今年1258点の応募があった。新学年がスタートから応募締め切りまでの2カ月間に満たない限られた時間の中で、1258人の子どもの詩を書いた。この事実は何とも感動的だ。沖繩の詩のバトンが未来にタツチされていく光景を見た思いである。子どもの書く頑張り、書く場を作った大人の頑張り、そして、感謝したい。  
今選は難航した。全作品数と佳作数が比例した。宝の山だった。しかも力量僅差ともなれば、入賞者と並べると見劣りしない佳作作品が数多くあり、強い心残りとなった。殊に、中学生・高校生の部に



市原 千佳子 (詩人)

おいては、入賞に押し上げてやれない心の痛みを伴った。どうか今回入賞できなかったとしても、書き続けてほしい。詩を好きでいてほしい。  
【入賞外の心引かれた作品】  
《中学生の部》☆小橋川海斗「服を着る蟻たち」(石田中1年) モーテルの上から見下ろした人間を蟻に見立てた。詩の中には蟻という文句は使われていない。タイトルは詩の一行目だということもある。それが成功して象徴的に人間を描いた。☆川満濃「白紙に平和を」(石垣第中3年) ☆金城柚世「ぬれたついで」(前同) ☆稲福佳佳「唄

## すぐれた感性と思考

「弟のランドセル」(金城孝哉・西原南小4年) ランドセルを比べることで、よって、「体のよい弟」への深い思いやりを表現しています。自分の成長と弟への期待の表現もよいです。  
「ヤールー」(宮里琉太・水納小4年) ヤールー(やもり)を主人公にした  
「おはあちゃんのいうことをちゃんときいてつかれさせないでね。」と、同じようなことを言った。  
ホッとしたら  
なんだかはなの奥が「じゅわ、じゅわ。」とと少しいたくなくて。  
もう少し、その「じゅわ、じゅわ」を感じていたかった。  
【中学生】  
「石は黙っている」(石塚大久海・屋我地ひるぎ学園9年) 石は動かない。「我慢強ければ、優しい世の中になるのだろうか」。石は黙っている。この石の態度が希望につながります。  
「はま かわ やまと」(浜川大和・池間中1年) 自分の氏名に海、浜、川、山と盛り込まれている。その自然の大きな和を発見したとき、宇宙との一体感が生まれます。  
「窓の景色」(玉城妃子・石田中1年) 教室の窓に映った内外の景色。見逃しがちな風景をよく捉えました。細かい観察眼が生きています。  
【高校生】  
「手話を使うと楽しくなる」(古波津勇人・沖繩ろう学校高等部3年) 手話と文字言語の融合した独特の作品が生まれました。手話があつと広く理解されてほしいという思いが、強く詩表現を支えています。  
【最善】(池原妃織・コザ高2年) 自分自身が「良いと思える行動が出来たこと」の大切さがうまく表現されています。  
【夢幻】(上原愛音・宮古高3年) 青春の夢幻を、確かな表現力で詩っています。個性的な比喩が効果的です。  
「う鳥」(安岡中3年) 長さが募集規定より1バーのため対象から外した。残念!  
《高校生の部》「コザ高2年」宮古高2年の作品レベルが高かった。☆上地星音「心」(コザ高3年) ☆平安山明「家」(同2年) ☆砂川春香「七日間」(宮古高3年) ☆沖野月「絵」(前同)。中でも「心」は、あまり類のない表現法だった。《わあああああ》という叫び声だけの五行の作品。五感の感覚印象が最終的には心に集まるのだが、《わあああああ》というこの印象は、意味優先のことばでは説明できず、こういう爆発の仕方を取ったのか。詩が読み手の想像力なしでは味わえないものであることを、私たちは試してみよう。  
【入賞作品より】  
子どものすぐれた詩を読むと「良い子だなあ」と思う。フーベルに「神は細部にやどり給う」との名言があるが、すぐれた詩には細部にの気づきがある。「親子ってふしぎ」の「はなの奥のじゅわ、じゅわ」、窓の景色の「教室の窓に映ったもう一つの教室」がそれである。この細部に気づく道義は人間みんなが持っている五感。この五感を守り力になるが、磨くとすぐれた感性となつて詩の力となる。そしてこの力こそが詩をクイグイ書き進めるすぐれた考えへと導く元なのだ。  
「弟のランドセル」(金城孝哉・西原南小4年) ランドセルを比べることで、よって、「体のよい弟」への深い思いやりを表現しています。自分の成長と弟への期待の表現もよいです。  
「ヤールー」(宮里琉太・水納小4年) ヤールー(やもり)を主人公にした

## 思いが支える詩表現

たことが面白いです。「ヤールー」には笑ってしまいました。(安原登生・知念小6年) 聞き直ったように「下手で何が悪い」と問いかけます。「みんな支えあっているじゃないだろう」が生きています。  
【中学生】  
「石は黙っている」(石塚大久海・屋我地ひるぎ学園9年) 石は動かない。「我慢強ければ、優しい世の中になるのだろうか」。石は黙っている。この石の態度が希望につながります。  
「はま かわ やまと」(浜川大和・池間中1年) 自分の氏名に海、浜、川、山と盛り込まれている。その自然の大きな和を発見したとき、宇宙との一体感が生まれます。  
「窓の景色」(玉城妃子・石田中1年) 教室の窓に映った内外の景色。見逃しがちな風景をよく捉えました。細かい観察眼が生きています。  
【高校生】  
「手話を使うと楽しくなる」(古波津勇人・沖繩ろう学校高等部3年) 手話と文字言語の融合した独特の作品が生まれました。手話があつと広く理解されてほしいという思いが、強く詩表現を支えています。  
【最善】(池原妃織・コザ高2年) 自分自身が「良いと思える行動が出来たこと」の大切さがうまく表現されています。  
【夢幻】(上原愛音・宮古高3年) 青春の夢幻を、確かな表現力で詩っています。個性的な比喩が効果的です。